

**中野区 ヤングケアラー実態調査
(子どもの生活についてのアンケート)
報告書
【概要版】**

■ 本調査の概要について

調査対象

- ・区立小学校に在籍する4～6年生の全児童
- ・区立中学校に在籍する全生徒
- ・区内に住民登録のある高校生世代

調査期間

- ・小学生および中学生
令和5年10月2日（月）～令和5年10月31日（火）
- ・高校生世代
令和5年11月1日（水）～令和5年11月30日（木）

調査方法

ウェブ回答による選択式と自由記述欄への直接入力。
小学生・中学生は学校で配布されているタブレットを利用する。高校生世代は調査用URL、二次元コードを記載した依頼文を郵送し、各個人のスマートフォン等から回答。

回収状況

	対象者数	有効回答数	有効回答率
小学生	5,234人	2,406人	46.0%
中学生	3,548人	2,626人	74.0%
高校生世代	5,258人	640人	12.2%

■ 調査結果について（抜粋）

1. お世話をしている子どもの割合

お世話をしている家族が「いる」と回答した小学生は16.9%（5人に1人）、中学生5.8%（17人に1人）、高校生世代は4.5%（22人に1人）。特に小学生が国と比較すると10.4ポイント高い。

2. お世話の対象

お世話の対象は、小中学生では「弟・妹」、高校生世代では「母」が最も多い。

3. お世話の頻度

お世話の頻度は「ほぼ毎日」が全世代を通じて最も多く、生活への影響を問う質問には、「自分の時間が取れない」「友達と遊ぶことができない」「眠る時間が足りない」といった回答があり、「自分のことについて話を聞いて欲しい」「勉強を教えて欲しい」といった支援を求める声も目立った。

4. 調査結果の分析と活用について

こども家庭庁が定義する条件設定を参考に分析した結果、**「ヤングケアラーと思われる子ども」は小学4年生～高校3年生の調査対象全体の5.0%（281人）、その中でも家族のお世話により日常生活に影響がでている「何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども」は1.4%（82人）と推定された。**

本調査の結果を踏まえ、今後の施策検討の基礎資料として活用していく。

■ ヤングケアラーと思われる子どもについて①

分析の ポイント

1

お世話をしている家族が「いる」と回答した小学生は16.9%（5人に1人）、中学生5.8%（17人に1人）、高校生世代は4.5%（22人に1人）。国と比較すると割合が高い為に追加分析を行い、「ヤングケアラーと思われる子どもの推定割合(5.0%)」を算出した。

お世話をしている家族が「いる」と回答した中野区の小学生の調査結果は、国の調査結果（6.5%・15人に1人）に比べて高い傾向がみられ、中学生の調査結果は、国の調査結果（5.7%・17人に1人）とほぼ同じ割合、高校生世代の調査結果は、国の調査結果（4.1%・24人に1人）に比べてやや高い傾向がみられた。（図表1－A）

国の調査報告では、子どもが「お世話をしている」という回答には、「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」が混在している可能性が指摘されており、本区の小学生の回答においては、特にそれが顕著にあらわれた可能性がある。

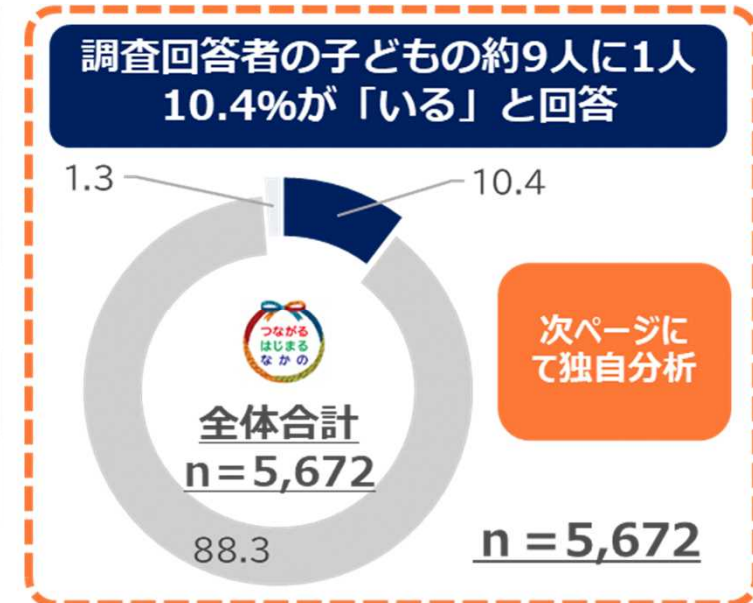
しかし、今回の調査方法や内容では、子ども（特に小学生）が「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」を混在しているかについては明確にできなかった。

また次ページにて、調査対象の中野区の子どもを全体のアンケート結果を基に、こども家庭庁ホームページのヤングケアラー定義を参考にヤングケアラーと思われる子どもの推定条件付けを行い、独自に数値を抽出・分析を行った。（図表1－Bと次ページ図表1－C）

■図表1－A 中野区と国のお世話をしている子どもの人数と割合の比較

	中野区		国	
	何人に1人がお世話をしているか	割合	何人に1人がお世話をしているか	割合
小学生	5人	16.9%	15人	6.5%
中学生	17人	5.8%	17人	5.7%
高校生世代	22人	4.5%	24人	4.1%

■図表1－B 中野区の調査回答者全体のお世の有無の割合(単位:%)



■ ヤングケアラーと思われる子どもについて②

こどもまんなか
こども家庭庁

こども家庭庁ホームページの下記ヤングケアラー定義を参考に
ヤングケアラーと思われる子どもの推定条件付けを行い、独自に数値を抽出した

- ①本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを②日常的に行っているこどものこと。
③責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

こども家庭庁が定義する条件設定を①～③の要素に分けて分析すると、要素①と②にあてはまる「**ヤングケアラーと思われる子ども**」は小学4年生～高校3年生の調査対象全体の5.0%（281人）、その中でも家族のお世話により日常生活に影響がでている要素①と②と③にあてはまる「**何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども**」は1.4%（82人）と推定される。（図表1-C）

■図表1-C 中野区のヤングケアラーと思われる子どもの割合

要素①：お世話をしている家族が「いる」子ども 10.4% 588人

お世話をしている家族が「いる」子ども

小学生	16.9%	407人
中学生	5.8%	152人
高校生世代	4.5%	29人

要素①+②：ヤングケアラーと思われる子ども 5.0% 281人

要素① お世話をしている家族が「いる」子ども

要素② お世話を「週3日以上」又は「週2日以下だが1日あたり3時間以上」行っている子ども

小学生	7.9%	191人
中学生	2.9%	75人
高校生世代	2.3%	15人

要素①+②+③：何らかの影響が出ていて支援が急がれる子ども 1.4% 82人

要素①+②の「ヤングケアラーと思われる子ども」の中でお世話をしているためにやりたいけどできないことがある（1つ以上に該当）子ども

小学生	2.2%	52人
中学生	0.9%	24人
高校生世代	0.9%	6人

有効回答数（=n）：
調査対象の回答者全体
小学4年生～高校3年生 5,672人

■ 「お世話している」 = 「ヤングケアラー」ではない可能性について

分析の ポイント

2

「お世話をしている」と回答した中学生5.8%、高校生世代4.5%となった結果に比べて、「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合は中学生2.2%、高校生世代2.2%と割合が低く、「お手伝い」として家事や家族のお世話を行っている子どもが一定数いる。

本調査においては、国と同様の方法でまず「家族のお世話」の有無、またその状況について質問している。そのうえで、中学生・高校生世代に対して「ヤングケアラーの状態像」をイラストにて示し、回答者自身がヤングケアラーに該当すると思うかを質問している。

中野区の「お世話をしている」と回答した中学生5.8%、高校生世代4.5%となった結果に比べて、中野区の「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合は中学生2.2%、高校生世代2.2%となり、各世代において割合が低くなっている。(図表2-A)

これは「お世話をしている」と回答した子どもの中には、ヤングケアラーとして定義される「お世話を要する家族がいる」、或いは「大人が担うようなお世話の責任を引き受けている」とまでは言えない、子どもが行う範囲内の「お手伝い」として家事や家族のお世話を行っている子どもが一定数含まれていると推察される。

この点は「お世話をしている」かつ「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合についての結果が、国の中学2年生16.3%、全日制高校2年生15.0%、定時制高校2年生相当25.8%と比較すると、中野区は中学生11.2%、高校生世代13.8%と、各世代において割合が低くなっている事からも、「お手伝い」として家事や家族のお世話を行っている子どもが、「お世話をしている」と回答した子どもの中に一定数含まれている可能性がある」と推察できる。

反面、子ども自身が「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」かを明確に判別できていない可能性や、自身がヤングケアラーであることを気づいていない・認めたくないと考えている子どもがいる可能性も推察できる為、今後は「ヤングケアラーの認知の拡大」や「支援や気づき等の周りのサポート」についても十分に配慮した支援策を検討していく必要がある。

■図表2-A 中野区と国の「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した子どもの割合の比較(単位:%)

	アンケートに回答した子どもで		お世話をしていると回答した子どもで	
	ヤングケアラーにあてはまると回答		ヤングケアラーにあてはまると回答	
	中野区	国	中野区	国
中学生	2.2	1.8	11.2	16.3
高校生世代	2.2	2.3	13.8	15.0

■ 中学生と高校生世代の「ヤングケアラー」の認知度について

分析の ポイント

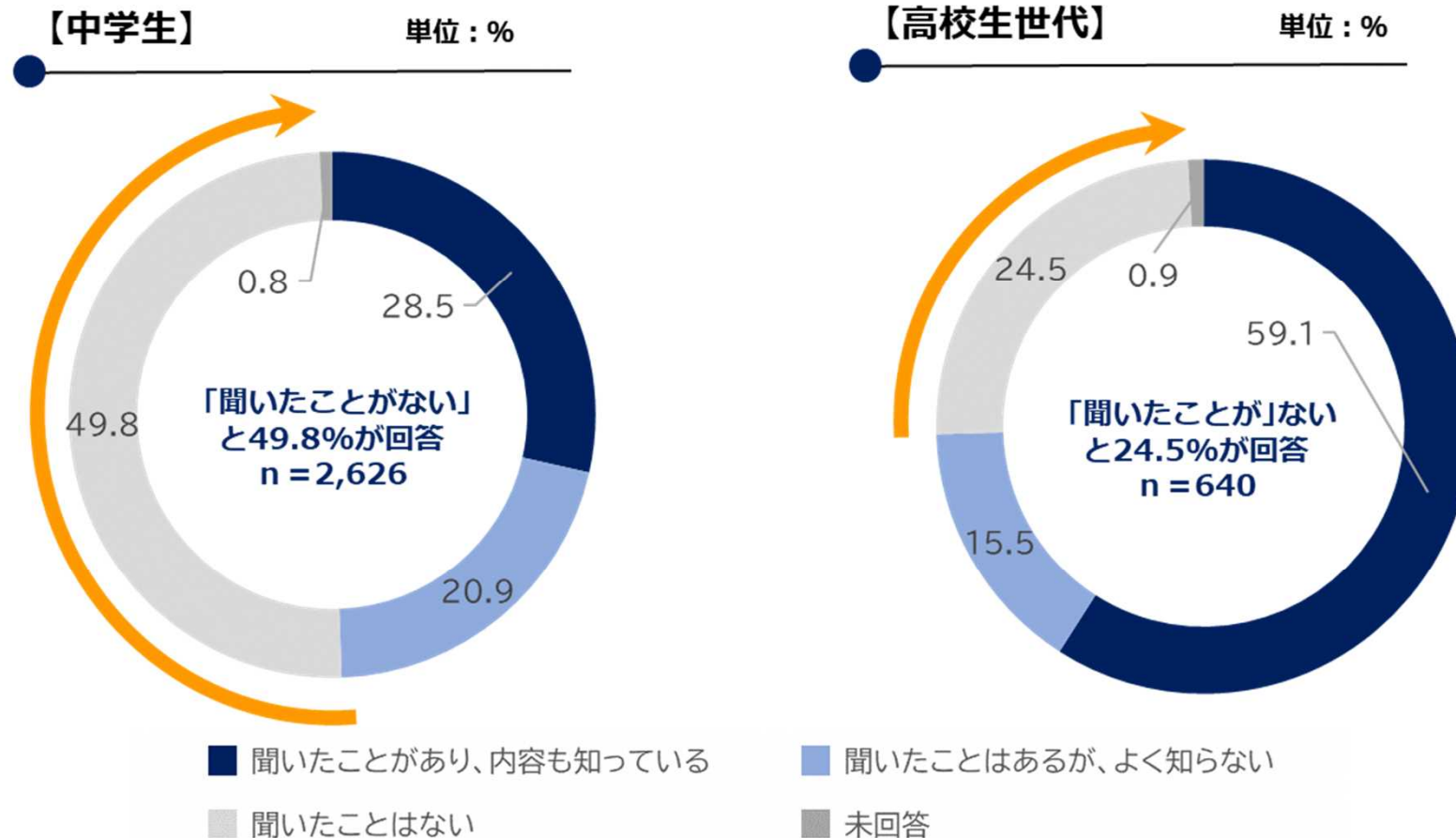
3

中学生49.8%、高校生世代24.5%が「ヤングケアラーという言葉が『聞いたことがない』」と回答。中学生の約半分、高校生世代の約4分の1が「ヤングケアラー」という言葉を知らない為、言葉や定義について認知度の拡大が必要である。

「ヤングケアラー」の概念を知っている割合は、国の調査結果では中学2年生15.1%、全日制高校2年生12.6%、定時制高校2年生相当13.7%の調査結果と比べて非常に高く、中野区においては「ヤングケアラー」の認知度は高まっているといえる。

一方、中高生で49.8%、高校生世代で24.5%は「聞いたことはない」という回答があり、ヤングケアラーの自己認識がないまま、ヤングケアラーとして定義される「お世話をしている」可能性もあり、より正確なヤングケアラーの実態把握の為には、より広く「ヤングケアラー」の認知度を高めることが必要である。(図表3-A)

■図表3-A 中学生と高校生世代の「ヤングケアラー」の認知度についての割合



■ 子どもの成長に伴い「お手伝い」が「お世話」となる可能性について

分析の ポイント

4

「お世話により生活に影響が出ている」と「何かしらの大変さを感じている」と回答した子どもの割合は高校生世代になると高くなる。「家族のお手伝い」と「家族のお世話」の判別は非常に難しい為、子どもを注意深く見守る必要がある。

1日あたりにお世話に費やす時間については、小学生平均2.8時間、中学生平均3.2時間、高校生世代平均3.6時間であった。これは各世代全てが国の小学6年生平均2.9時間、中学2年生平均4.0時間、全日制高校2年生平均3.8時間と比べて短い。年齢が高くなればなるほど、お世話をしている時間は長時間化している。(図表4-A)

そして、「お世話により生活に影響が出ている」と回答した小学生は20.1%、中学生は19.7%であるが、高校生世代になると34.5%と割合が高くなる。

また、お世話をしている子どもがお世話をする事で「何かしらの大変さを感じている」小学生は26.0%、中学生は25.0%であるのに対して、高校生世代の51.7%が大変さを感じており、子どもはお世話の時間が長時間化することで、子どもが普段やりたいことが出来ていない等、生活に影響が出てくる可能性が成長とともに高くなると推察できる。

これは、小学生や中学生の時は「家族のお手伝い」として行っていた内容が、高校生世代になり、お手伝いの時間が長時間化することで「家族のお世話」として子どもの負担になってくる可能性がある」と推察できる。さらに子どもは「お世話」も短時間であったり、本人が大変さを感じていなければ「お手伝い」と考え、反対に「お手伝い」も長時間であったり、大変さを感じていれば「お世話」となる為に「家族のお手伝い」と「家族のお世話」の境目はグレーゾーンであり子どもへの注意深い見守りが必要である。(図表4-B)

■図表4-A お世話をしている平均時間の比較(単位:時間)

■図表4-B 「家族のお世話」と「家族のお手伝い」のイメージ図

	中野区	国
小学生	2.8	2.9
中学生	3.2	4.0
高校生世代	3.6	3.8

お世話の
時間が
長時間化

ヤングケアラーの可能性が高い



ヤングケアラーの可能性が低い



お世話とお手伝いの境目はグレー

■ お世話をしている子どもの世帯状況と健康状態について

分析の ポイント

5

お世話をしている高校生世代の世帯状況や小学生・中学生・高校生世代の健康状態に着目することで、「お世話をしている子ども」を発見するきっかけや手がかりをつかむ可能性がある為に注意深く見守る必要がある。

「お世話をしている」と回答した場合と「お世話をしていない」と回答した場合を比べて、高校生世代は「お世話をしている」と回答した場合、三世帯家庭(6.9%)とひとり親家庭(13.8%)の割合が「お世話をしていない」と回答した場合に比べて高く、二世帯家庭(69.0%)の割合は、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて低くなっている為に、高校生世代は家庭の世帯状況が、子どものお世話の有無に影響を及ぼしている可能性がある。(図表5-A)

また、「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べ、小学生・中学生・高校生世代においては健康状態が「よくない」(小学生0.7%・中学生1.3%・高校生6.9%)、「あまりよくない」(小学生3.9%・中学生7.2%・高校生13.8%)の割合が高く、家族の「お世話をしていない」場合に比べ、健康状態に影響が出ている可能性があり、子どもの健康状態に着目することで「お世話をしている子ども」を発見する手がかりとなる可能性も推察できる。(図表5-B)

■図表5-A お世話をしている家族の有無による世帯状況の割合(単位:%)

	家族のお世話	n	二世帯家庭	三世帯家庭	ひとり親家庭	その他	未回答
小学生	いる	407	82.6	5.7	8.6	2.5	0.7
	いない	1944	83.6	5.6	9.9	0.7	0.2
中学生	いる	152	80.3	5.3	10.5	2.0	2.0
	いない	2459	81.4	6.8	11.2	0.4	0.1
高校生世代	いる	29	69.0	6.9	13.8	6.9	3.4
	いない	607	81.1	5.9	12.0	0.7	0.3

■図表5-B お世話をしている家族の有無による体調についての割合(単位:%)

	家族のお世話	n	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	未回答
小学生	いる	407	58.2	22.9	13.5	3.9	0.7	0.7
	いない	1944	60.7	19.1	15.8	3.3	0.6	0.5
中学生	いる	152	42.1	28.3	19.7	7.2	1.3	1.3
	いない	2459	46.2	25.5	22.3	5.2	0.7	0.1
高校生世代	いる	29	27.6	27.6	20.7	13.8	6.9	3.4
	いない	607	53.4	22.7	17.0	6.4	0.2	0.3

■ 学校・職場への「出欠」「遅刻」「早退」への影響について

分析の ポイント

6

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べ、学校・職場への「出欠」「遅刻」「早退」の状況に影響が出ている可能性がある。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べ、小学生・中学生・高校生世代において学校を「たまに休む」（小学生25.3%・中学生19.7%・高校生世代34.5%）「たまに遅刻することがある」（小学生17.9%・中学生21.1%）「たまに早退することがある」（小学生12.8%・中学生17.1%・高校生世代17.2%）の割合が高くなっており、学校や職場の生活に影響が出ている可能性があると推察できる。また、高校生世代はよく休む（10.3%）よく遅刻する（24.1%）よく早退する（6.9%）の割合も高くなっており、よりお世話の影響が出ている可能性が高い。（図表6－A～C）

■図表6－A

家族のお世話の有無による
出欠への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど 休まない	たまに休む	よく休む	未回答
小学生	いる	407	73.7	25.3	1.0	0.0
	いない	1944	78.4	19.8	1.6	0.2
中学生	いる	152	77.0	19.7	2.0	1.3
	いない	2459	83.6	14.6	1.7	0.2
高校生世代	いる	29	51.7	34.5	10.3	3.4
	いない	607	78.4	17.5	3.8	0.3

■図表6－B

家族のお世話の有無による
遅刻への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど遅刻す ることがない	たまに遅刻する ことがある	よく遅刻する	未回答
小学生	いる	407	78.4	17.9	3.4	0.2
	いない	1944	79.1	16.4	4.0	0.6
中学生	いる	152	74.3	21.1	2.6	2.0
	いない	2459	82.0	14.8	3.0	0.2
高校生世代	いる	29	55.2	17.2	24.1	3.4
	いない	607	77.1	17.3	4.9	0.7

■図表6－C

家族のお世話の有無による
早退への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど早退す ることがない	たまに早退する ことがある	よく早退する	未回答
小学生	いる	407	86.2	12.8	0.5	0.5
	いない	1944	90.7	8.3	0.6	0.3
中学生	いる	152	80.3	17.1	1.3	1.3
	いない	2459	91.0	8.3	0.5	0.2
高校生世代	いる	29	72.4	17.2	6.9	3.4
	いない	607	90.9	7.4	0.8	0.8

■ お世話をしている子どもの学校や職場での生活への影響について

分析の ポイント

7

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、全ての世代で学校や職場での生活への様々な影響がでている可能性が高く、特に忘れ物や提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い子どもが多い。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、学校や職場での生活への影響について、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代で全体的に回答人数の割合が高い傾向にあり、様々な影響がでている可能性が高いと推察できる。

その中でも特に、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代において、学校や職場での生活において「持ち物の忘れ物が多い」（小学生28.0%・中学生34.2%・高校生世代24.1%）「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」（小学生21.9%・中学生40.8%・高校生世代37.9%）「部活動や塾，習い事，クラブ活動等を休むことが多い」（小学生5.7%・中学生11.2%・高校生世代10.3%）等の割合が高くなっている。

また、小学生・高校生世代では「宿題や課題ができていないことが多い」（小学生15.5%・高校生世代27.6%）、高校生世代では「授業中・仕事中に寝てしまうことが多い」（高校生世代41.4%）の割合も高くなっている。

こうした学校や職場での生活状況がみられる子どもは「家族のお世話をしている」可能性があり、その子どもが「ヤングケアラー」である可能性をふくめて、大人が注意深く見守る必要がある。（図表7－A）

■図表7－A 家族のお世話の有無による学校や職場での生活への影響についての割合(単位:%)

	家族のお世話	n	授業中・仕事中に寝てしまうことが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や塾，習い事，クラブ活動等を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室・健康相談室で過ごすことが多い	学校・職場では1人で過ごすことが多い	友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	未回答
小学生	いる	407	3.7	15.5	28.0	5.7	21.9	1.5	4.2	7.9	7.6	55.5	1.2
	いない	1944	3.5	10.9	22.9	2.3	18.3	0.7	1.4	5.9	5.8	61.5	1.9
中学生	いる	152	17.1	21.7	34.2	11.2	40.8	1.3	1.3	7.2	7.2	34.9	5.3
	いない	2459	22.1	23.1	26.9	7.0	33.3	0.6	0.6	6.4	5.7	43.4	2.3
高校生世代	いる	29	41.4	27.6	24.1	10.3	37.9	0.0	0.0	13.8	17.2	27.6	6.9
	いない	607	35.4	16.5	18.0	7.6	16.6	3.0	3.0	8.9	11.5	39.5	3.8

■ お世話をしている子どもの悩みや困りごとについて

分析の ポイント

8

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、小学生と中学生は「毎日の生活における悩み事」、高校生世代は「将来のこと」「経済面のこと」「人間関係に関すること」など多くの悩みを抱えていることがうかがえる。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、現在の悩みについて、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代で全体的に回答人数の割合が高い傾向にあり、様々な悩みを抱えている可能性が高いと推察できる。その中でも、小学生においては「友達とのこと」（13.3%）「進学のこと」（11.5%）「習い事のこと、塾、クラブ活動のこと」（10.6%）、中学生においては「学校の成績のこと」（48.7%）「進路のこと」（42.8%）「友だちとのこと」（17.8%）などの割合が高くなっており、**毎日の生活における悩み事**を抱えていることがうかがえる。高校生世代においては「進路のこと」（69.0%）「学校の成績のこと」（34.5%）などの**将来のこと**、「生活にかかるお金のこと」（44.8%）「学校でかかるお金のこと」（37.9%）などの**経済面のこと**や「自分と家族の関係のこと」（37.9%）「友だちとのこと」（24.1%）等の**人間関係に関すること**の割合が高くなって、毎日の生活における悩み事の他にも多くの悩みを抱えていることがうかがえる。（図表8－AとB）

■図表8－A 小学生の家族のお世話の有無による悩みや困りごとの割合(単位:%)

	家族のお世話	n	友だちとのこと	学校の成績のこと	進学のこと	習い事のこと、塾、クラブ活動のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	とくにない	未回答
小学生	いる	407	13.3	8.1	11.5	10.6	8.6	5.2	8.8	3.9	60.7	3.7
	いない	1944	12.2	7.5	9.6	9.4	5.1	3.3	5.2	3.0	67.6	3.5

■図表8－B 中学生と高校生世代の家族のお世話の有無による悩みや困りごとの割合(単位:%)

	家族のお世話	n	友だちとのこと	学校の成績のこと	進路のこと	クラブ活動、部活動のこと	塾、習い事のこと	生活にかかるお金のこと	学校でかかるお金のこと	自分と家族の関係のこと	自分以外の家庭内の人間関係のこと	病気や障害のある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	未回答
中学生	いる	152	17.8	48.7	42.8	10.5	9.2	10.5	6.6	11.2	5.3	3.3	8.6	2.0	35.5	5.3
	いない	2459	13.8	45.1	36.7	9.9	10.2	5.0	2.6	6.6	3.2	1.3	4.2	2.6	39.7	2.8
高校生世代	いる	29	24.1	34.5	69.0	20.7	10.3	44.8	37.9	37.9	10.3	13.8	13.8	3.4	10.3	0.0
	いない	607	16.1	17.0	58.6	11.9	6.1	13.7	11.5	7.4	4.3	2.5	7.2	2.6	28.7	1.5

中野区ヤングケアラー実態調査の特徴

本調査は、中野区の「ヤングケアラー」と思われる子どもをより正確に把握するため、小学生・中学生・高校生世代に対して幅広く実態調査を実施した。

結果として、区の状況把握や現状の「ヤングケアラー」に対する認知度、課題・難しさなどの傾向も捉えることができた。

「ヤングケアラー」への理解と子どもに寄り添った支援の充実にむけて

こども家庭庁が定義する条件設定を参考に分析した結果「**ヤングケアラーと思われる子ども**」は**小学4年生～高校3年生の調査対象全体の5.0%（281人）**、その中でも家族のお世話により日常生活に影響がでている「**何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども**」は**1.4%（82人）**と推定された。

この結果から本区においても一定数の「ヤングケアラー」が存在しており、特に支援が急がれる子どもへの支援は急務であるといえる。

またアンケート調査の自由意見では、「このアンケート調査でヤングケアラーについて初めて知った」「ヤングケアラーについてよくわかった」という意見もあり、本調査が「ヤングケアラー」の認知度向上の普及につながったといえるが、中学生の約半分、高校生世代の約4分の1が「ヤングケアラー」という言葉を知らない結果となった為、言葉や定義について認知度の拡大が必要である。

また自由意見では、ヤングケアラーに必要だと思う支援について「相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり」「子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重・声かけ」などの子どもが自分の事を話しやすい環境面や、「学校におけるサポートや配慮」「周囲の大人の理解や寄り添い」などの大人が子どもに対する見守り、また「お世話をしてくれる各種施設の充実」「物品支援や金銭面でのサポート」「子どもに自由な時間を与えるための制度や支援の充実」についてなど、子どもの目線からも幅広く意見があった。

これらの意見をいかして、周囲の大人が子どもに権利があることを理解し、子どもに寄り添い、子どもの目線に立った具体的な支援を考えることが必要である。

中野区 ヤングケアラー実態調査（子どもの生活についてのアンケート） 報告書
【概要版】

令和6（2024）年3月

発行 / 中野区
担当 / 中野区地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課
電話 / 03-3389-1111（代表）
メール / houkatukea@city.tokyo-nakano.lg.jp